

2025 年上半期ベトナム経済概況

2025 年上半期のベトナム経済は、ここ約 15 年の上半期統計で最高水準の伸びをみせました。

ベトナム統計総局によると、第 2 四半期の GDP は前年同期比 7.96%増と大きく成長し、2025 年上半期（1 月～6 月）の GDP 成長率は 7.52%に達しました。これは同局が公開している 2011 年以降のデータで、上半期統計の最高水準となります。そのうち、製造・建設業が 8.33%増、サービス業 8.14%増と好調で、特に工業・製造業が 10%を超える伸びを示すなど、経済回復の進展がみられます。ベトナムの 2025 年 GDP 成長率について、国際機関の予測では 7%前後となっている一方で、政府目標は 8%と非常に挑戦的な数値を挙げています。依然として高い目標であるものの、この上半期の成長率は各機関の予想を超えるものとなっています。

2025 年上半期の輸出額は前年同期比 14.4%増の 2,198 億米ドル、輸入額は同 17.9%増の 2,122 億ドルとなり、76 億ドルの貿易黒字という結果でした。主要輸出品は工業加工品（全体の 88.4%）、主要輸入品は生産原料（全体の 93.7%）、主要輸出国は米国（709 億米ドル）、主要輸入国は中国（847 億米ドル）です。輸出の堅調な伸びが貿易収支を支えており、新たな米国との貿易協定下でも関税リスクを回避しつつ、輸出構造のグレードアップが模索されています。

ベトナム政府が 4.5%以内に抑えることを目標としている CPI（消費者物価指数）については、2025 年上半期の前年比上昇率は約 3.27%と、比較的安定した水準に抑えられています。エネルギー・食料価格のゆるやかな上昇を背景に、政府は引き続きインフレ抑制策を重視しています。

ベトナムへの外国直接投資（FDI）について、新規・拡張件数は前年同期比 32.1%増の 2,814 件、認可額は同 35.2%増の 182 億米ドル超に達し、製造業が最多件数・額を記録しました。国別ではシンガポールが金額で首位（34 億米ドル）、件数では中国が最多（736 件）で、日本からはイオンモールや住友商事による大型新規案件もありました。ただし、製造業の投資額の伸びは 1～3 月に比べて鈍化しており、背景には米国の関税政策による先行き不透明感が影響しているとみられます。

通年目標の 8%成長達成に向けては、今後も政府・企業の協調による輸出市場の多様化、デジタル・グリーン・ハイテク分野への投資促進、ビジネス環境のさらなる改善がカギとなります。中長期的な成長の持続には、内需の底上げと労働生産性の向上も不可欠であり、政策運営の柔軟性と実効性が試される局面が続くといえます。

米国の相互関税措置への対応④

7 月 2 日の米越合意以降、具体的な進展の情報は入ってきていません。

ジェトロより米国の相互関税措置に関わるレポートが発表されており、日本企業の反応について

のレポートもありますので、参考になると思います。

○米国関税措置の ASEAN への影響

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/2b803ae1be26e06f.html>

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/40ebfff6ce4c14e0.html>

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/9a5d5e5d27098186.html>

大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク (ベトナム: NC Network Vietnam JSC.)

日本事務所：東京都台東区東上野 1 丁目 1 4 番 5 号 ユーエムビル 8 階

ベトナム事務所：48, No.5 Street, Him Lam, Tan Hung Ward, District 7, Ho Chi Minh, VIET NAM